

株式会社ツカモトコーポレーション

2023年3月期

第2四半期決算説明資料

2022年11月11日



1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 中期経営計画

連結業績ハイライト：第2四半期ハイライト

(百万円)

	2021年 第2四半期	2022年 第2四半期	前年比較
売上高	7,339	6,940	△ 399
営業利益	85	57	△ 28
経常利益	145	135	△ 10
当期純利益	103	128	24

▶ ラルフローレンホームの事業変更

ラルフローレンホームとのライセンス契約が終了し、店頭での販売から、商品を供給する事業へと変更。売上高はマイナスとなったが、経費の節減効果もあり、収益が改善した。

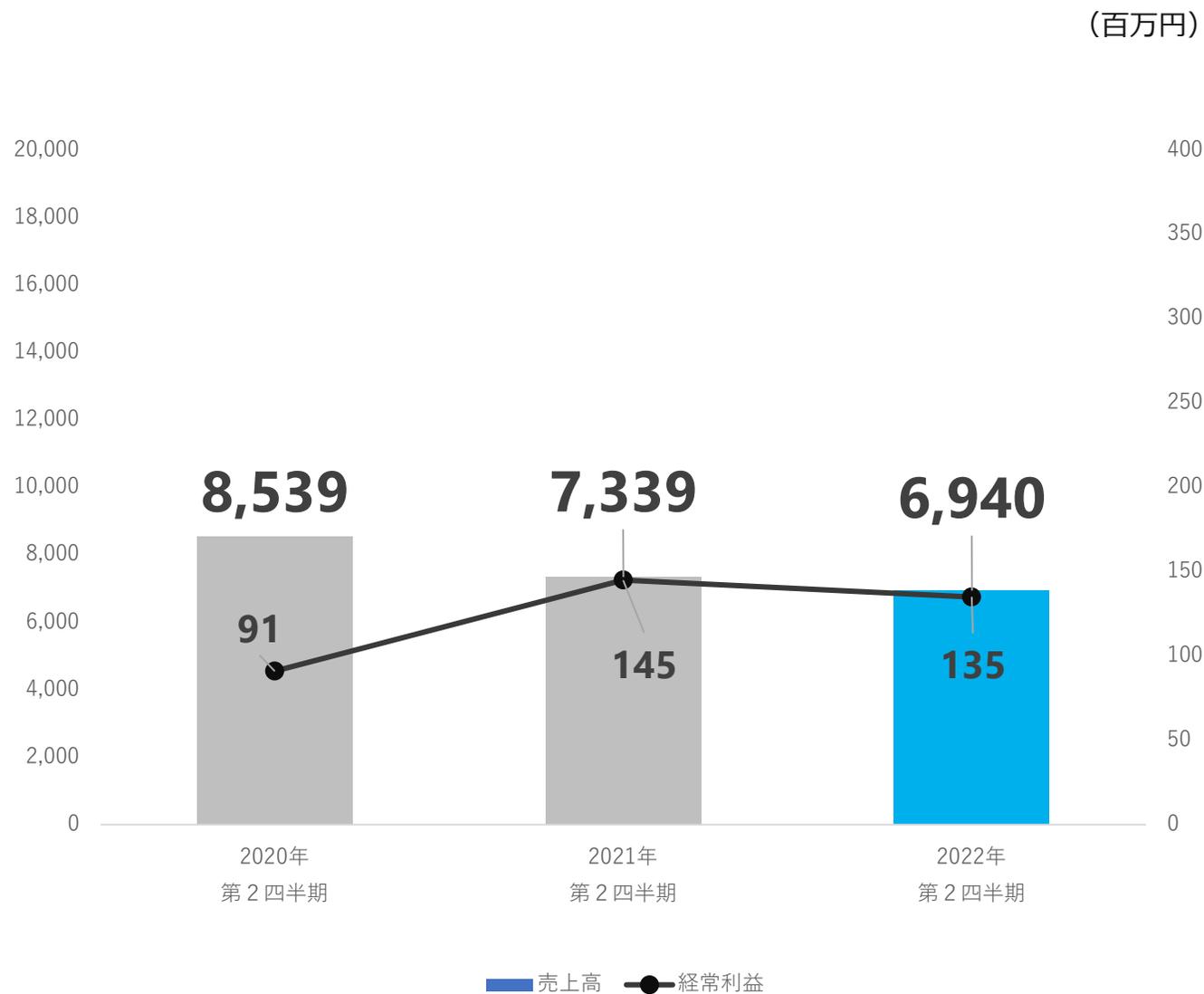
▶ 円安および資源価格の高騰

外国為替相場の急激な円安傾向、原油・原材料価格の高騰などの不安定な世界情勢のなか、主として健康・生活事業、ユニフォーム事業は商品の輸入において大きな影響を受けた。

▶ ライフスタイルブランド「BIYOMA」をローンチ

ホームファニッシング事業において、新ブランドBIYOMAを発表した。

連結業績ハイライト：第2四半期売上高・経常利益の推移



▶ ホームファニシング事業における事業の変更によって売上高は減収となった。



1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 中期経営計画

連結計算書類：連結損益計算書

	2021年 第2四半期	2022年 第2四半期	前年比較
売上高	7,339	6,940	△ 399
売上総利益	2,525	1,759	△ 766
（売上総利益率）	34.4%	25.3%	△ 9.1pt
販売費一般管理費	2,440	1,702	△ 738
営業利益	85	57	△ 28
（営業利益率）	1.2%	0.8%	△ 0.3pt
営業外収益	117	159	42
営業外費用	57	82	24
経常利益	145	135	△ 10
（経常利益率）	2.0%	1.9%	△ 0.0pt
特別利益	29	0	△ 29
特別損失	25	0	△ 25
税引前当期純利益	148	135	△ 13
当期純利益	103	128	24

(百万円)

連結計算書類：連結貸借対照表

(百万円)

	前連結会計年度末 (22/3/31)	2022年 第2四半期		前連結会計年度末 (22/3/31)	2022年 第2四半期
資産の部	26,524	26,165	負債の部	14,995	14,706
流動資産	7,378	7,971	流動負債	10,029	9,553
固定資産	19,145	18,194	固定負債	4,965	5,153
有形固定資産	13,106	12,782	純資産の部	11,528	11,459
無形固定資産	73	71	資本金	2,829	2,829
投資その他資産	5,964	5,340	資本剰余金	707	712
			利益剰余金	6,864	6,871
			自己株式	△ 83	△ 60
			その他包括利益累計額	1,209	1,106
資産の部合計	26,524	26,165	負債純資産合計	26,524	26,165

連結計算書類：連結キャッシュ・フロー計算書

	2021年 第2四半期	2022年 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 914	△ 137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 136	842
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 280	△ 252
現金及び現金同等物の期首残高	2,349	1,817
現金及び現金同等物の期末残高	1,019	2,271

(百万円)



1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
- 3. セグメント実績**
4. 業績予想
5. 中期経営計画

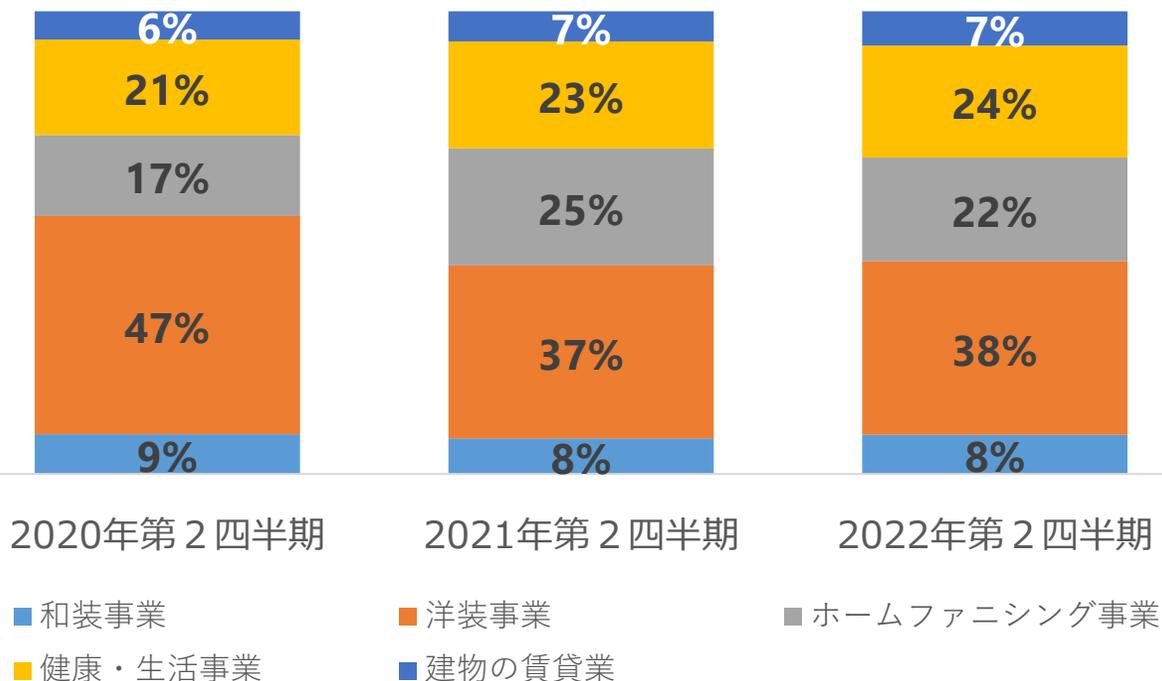
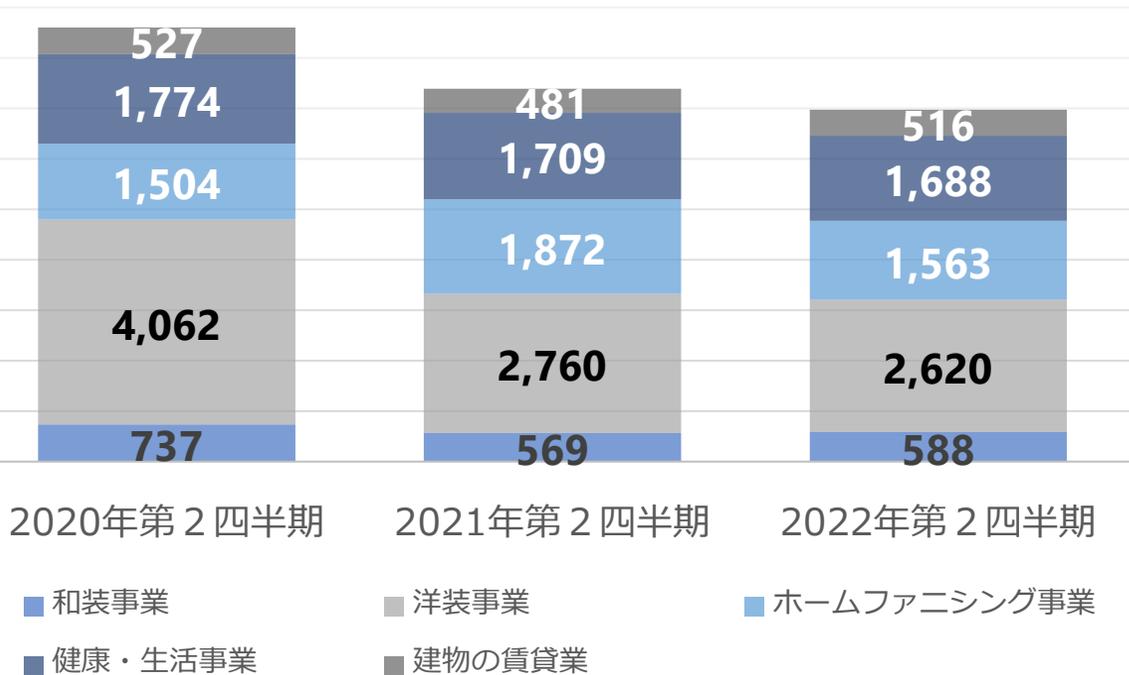
セグメント実績 : セグメント売上高構成

- ▶ ホームファニッシング事業は店頭での販売から商品を生産する事業へと変更となり売上高は減少したが、一時的な商品供給もあり、前年比83%となった。
- ▶ 売上構成比に前年から大きな変化はない。

売上高

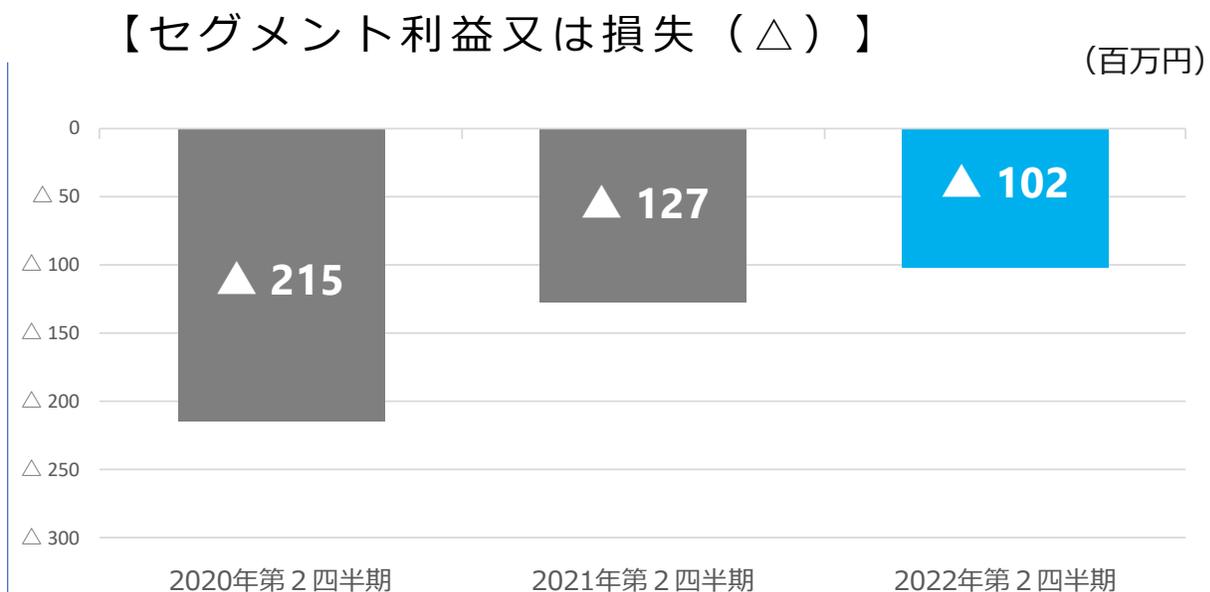
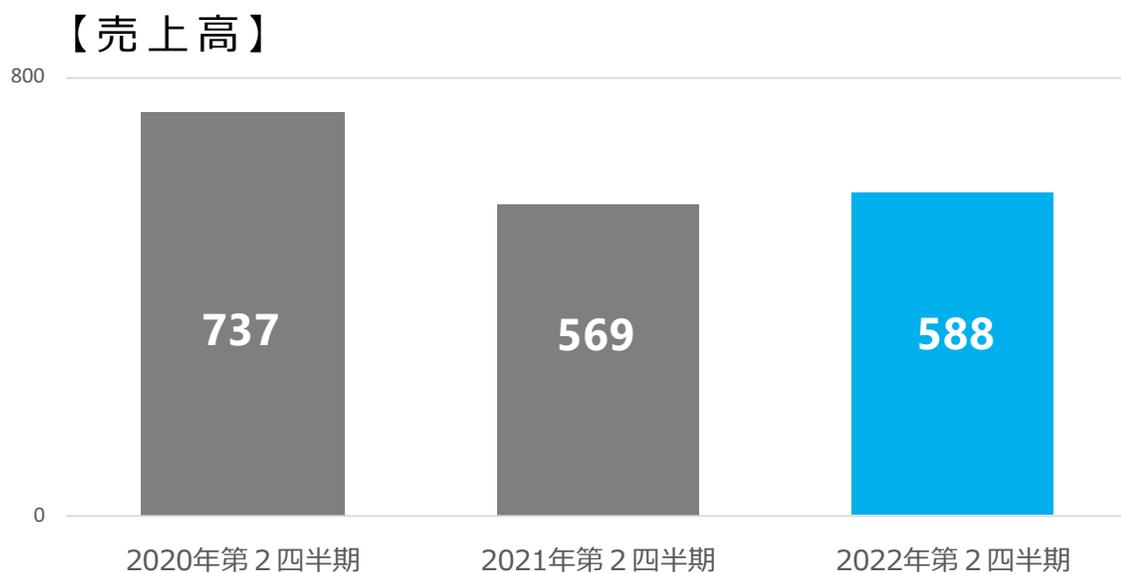
(百万円)

売上構成比



セグメント実績：和装事業

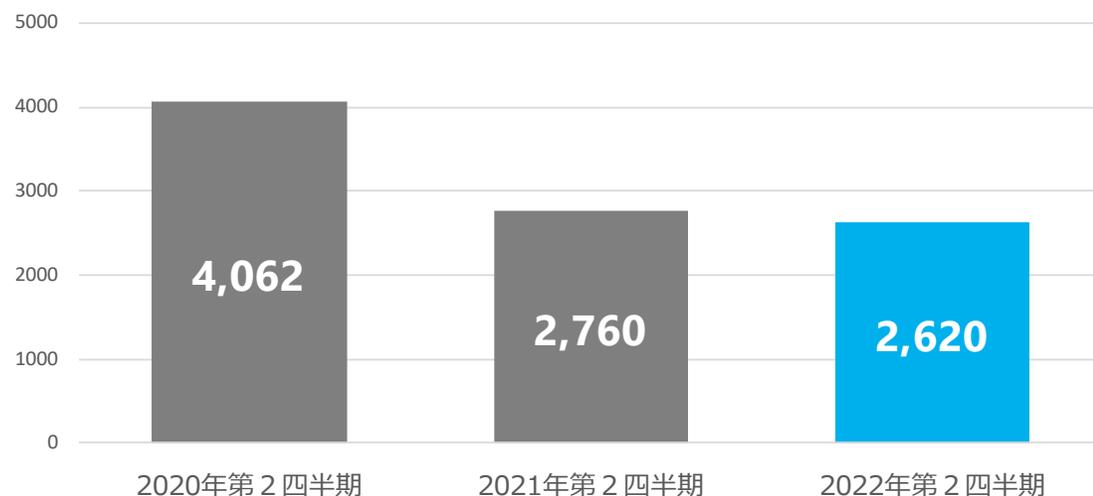
- ▶ 新型コロナウイルス感染防止対策と経済活動の両立が進んだことにより、催事数が増加。売上増となり、損益は改善しました。



セグメント実績：洋装事業

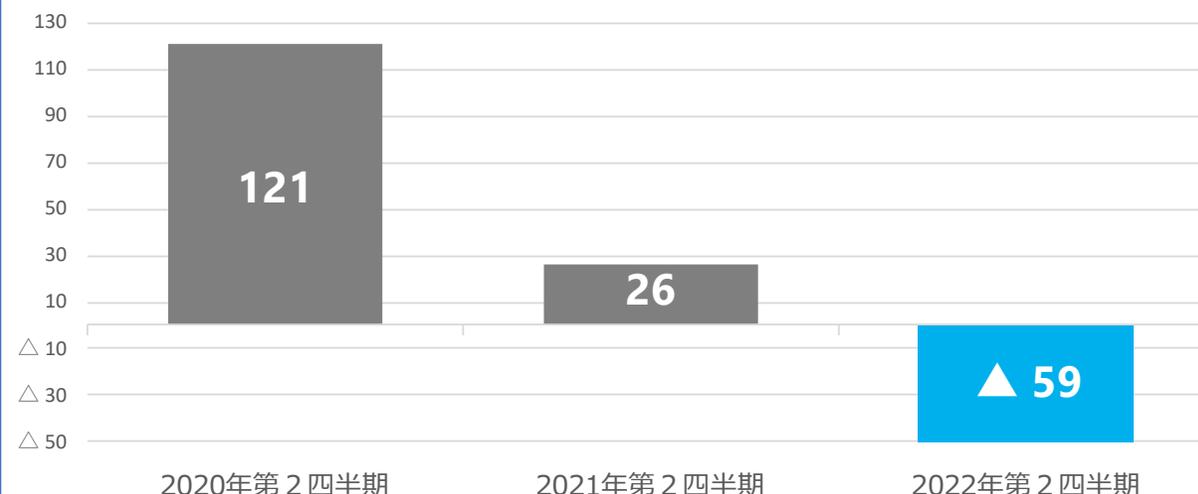
- ▶ アパレル事業は店頭不振の影響による受注額が減少し、減収となった。
- ▶ ユニフォーム事業は新規案件の減少に加え、急激な円安と原料価格の高騰により利益率が低下し、減収減益となった。

【売上高】



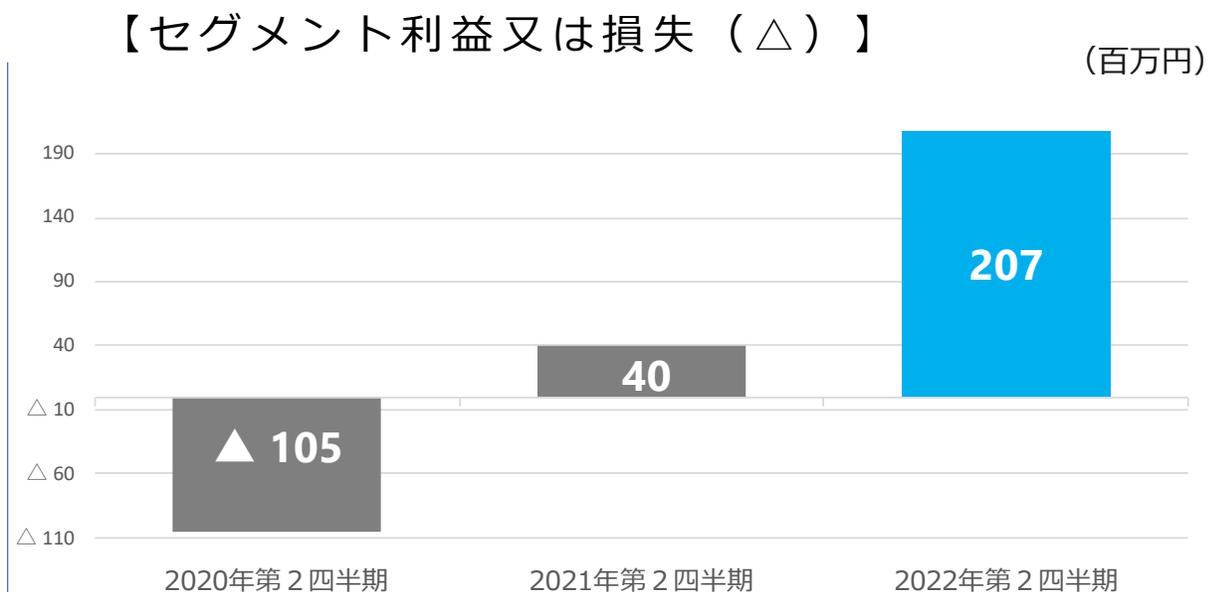
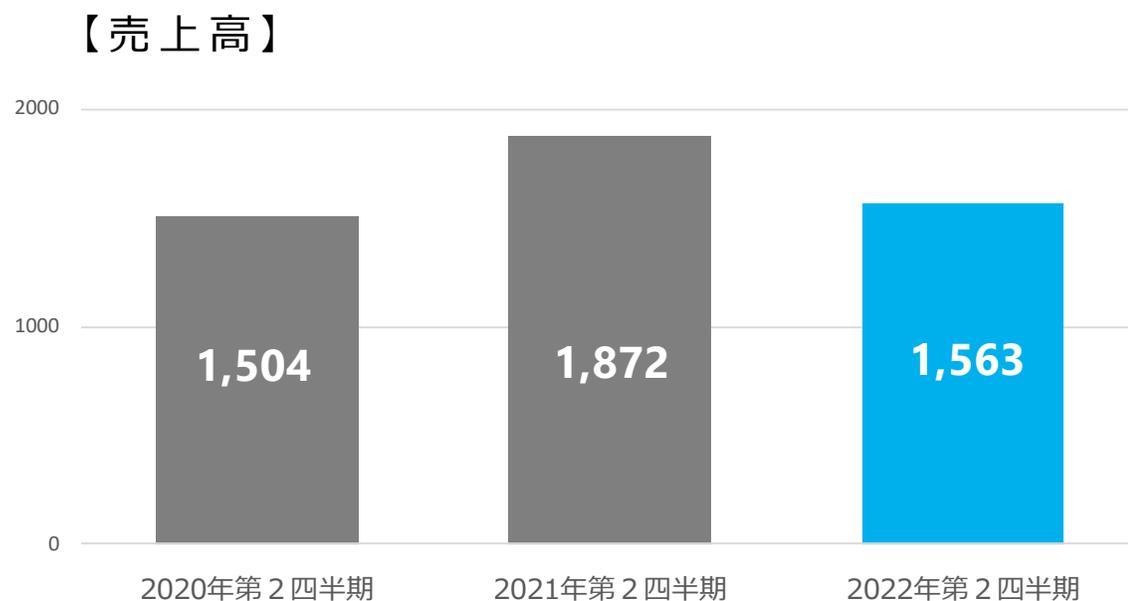
【セグメント利益又は損失 (△)】

(百万円)



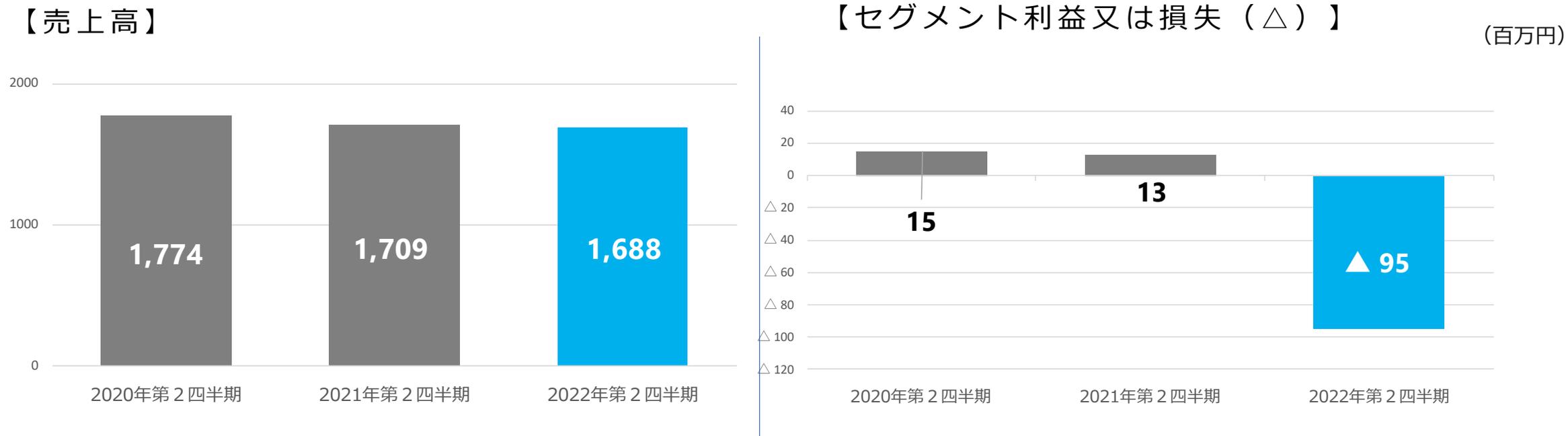
セグメント実績：ホームファニッシング事業

▶ラルフローレンホームコレクションのライセンス契約が終了し、店頭での販売から商品を供給する事業へと変更したことで減収となったが、経費の節減効果もあり、収益が改善した。



セグメント実績：健康・生活事業

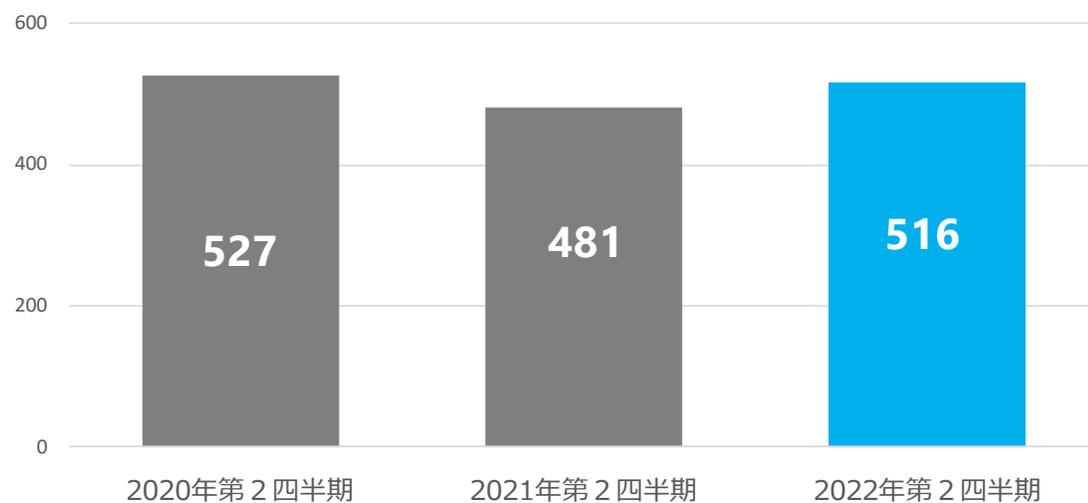
▶ テレビなど通販事業での売上不振の影響で減収となった。急激な円安と原材料の高騰による商品コスト上昇の影響で利益率が低下し、大幅な減益となった。



セグメント実績：建物の賃貸業

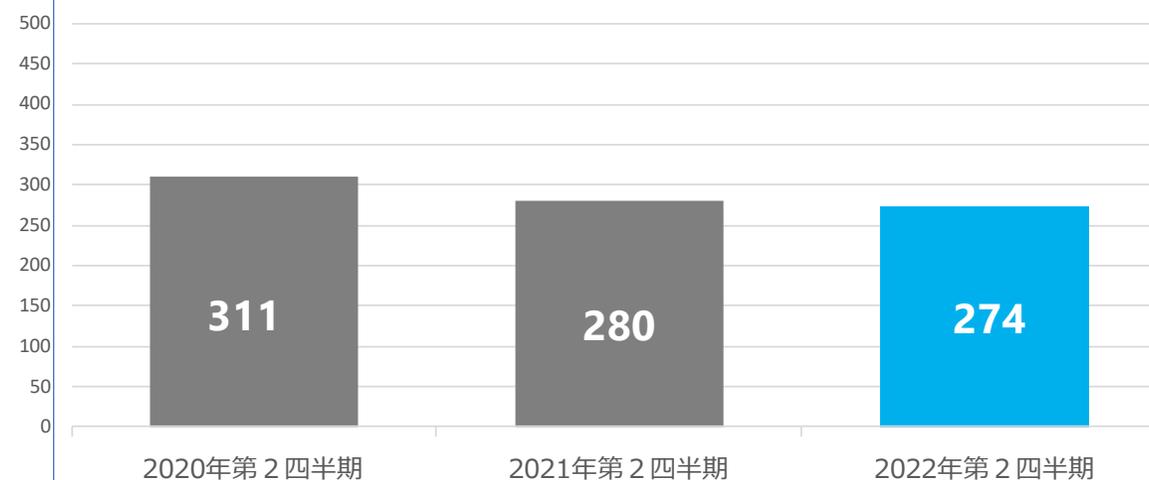
- ▶ 不動産は安定的に稼働し、前年並みに推移。

【売上高】



【セグメント利益又は損失（△）】

(百万円)





1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
- 4. 業績予想**
5. 中期経営計画

連結業績予想

(百万円)

	2021年度 第2四半期実績	2021年度 通期実績	2022年度 第2四半期実績	2022年度 通期予想
売上高	7,339	15,658	6,940	14,500
営業利益	85	229	57	250
経常利益	145	300	135	330
当期純利益	103	△ 329	128	300

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

※今後の市場動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。



1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
- 5. 中期経営計画**

新中期経営計画の骨子

- ▶ 新中期経営計画では「成長と変革に向けての新たな挑戦」を掲げ、既存事業の黒字化と新規事業の立ち上げ、上記事業を支える組織体制を変更し、継続的な株主還元を実施

2022-2024 中期経営計画

成長と変革に向けての新たな挑戦

骨子

1

早期の全営業部門黒字化

- 攻めと守りのメリハリをきかせて、事業単位を最適化

2

次世代のツカモトを支える
新規事業の立ち上げ

- 組織横断の新規事業の探索

3

営業部門黒字化と新規事業を
支えるための組織再編

- 中規模事業集約によるスリム化
- 新規事業部設立による事業部横断の推進

4

安定的な株主還元の実現

- 1株当たり年間配当額30円

次世代のツカモトを支える新規事業の立ち上げ

- ▶ 事業部横断の新規事業部だけではなく、既存事業部でも新たな取り組みを継続していく

各事業の新規関連の取り組み内容

和装

- 消費者ダイレクト販売の強化
- 加工サービス部門の売上拡大



▲5分で着られるきもの

ユニフォーム

- 環境対応事業「リテラ Re Terra」
- EC販売「日本橋白衣」



▲リテラ素材を使用した製品の製造



▲日本橋白衣 ECサイト開設

次世代のツカモトを支える新規事業の立ち上げ

- ▶ 事業部横断の新規事業部だけではなく、既存事業部でも新たな取り組みを継続していく

各事業の新規関連の取り組み内容

健康・生活 (エイム)

- ・ サウナメーカーHARVIA(ハルビア)社の販売代理店として東京ショールームをオープン



▲「HARVIA」東京ショールーム

ホーム・ ファッション

- ・ 新ブランド「BIYOMA」の立ち上げ



▲新ブランド「BIYOMA」

新規事業

- ・ 事業部横断型の新規事業部署の設置

次世代のツカモトを支える新規事業の立ち上げ

▶ ライフスタイルブランド「BIYOMA」をローンチ

「余白」をデザインする。をコンセプトに新しいライフスタイルブランドを立ち上げ。
ローンチイベント開催、期間限定のPOPUP SHOPを展開。



▲ルームウェアや雑貨、タオルをラインナップ



▲東京駅グランスタ・期間限定店



▲代官山・期間限定店



TSUKAMOTO CORPORATION

株式会社ツカモトコーポレーション

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。